



北里大学同窓会栃木県支部
公開講演会のお知らせ
2014年12月1日発行



栃木県支部ホームページQRコードです。
スマートフォンでのアクセスに利用下さい。

新年会を開催します!!

早いものでもう師走となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか?

さて、2015年の栃木県支部の新年会を下記の通り開催します。今回は、自治医科大学の私達が世話人となり運営を担当させていただきます。他職種、他施設の会員の方とも交流し、会員個々の親睦をはかる有意義な会になるよう準備を進めております。ご多忙中とは存じますが、今まで参加されたことがなかった方も、是非ご出席下さいますようお願い致します。

安田是和、塚原智典、飯島康之、篠原梨絵、福島愛理
(自治医科大学)

日時：2015年1月31(土) 18:00~

場所：GOLDA Lounge (ゴルダラウンジ)

〒320-0811 宇都宮市大通り 2-1-4 サテライトビル 9F

<http://r.gnavi.co.jp/ga15101/> Tel : 050-5797-2726

JR 宇都宮線宇都宮駅 西口徒歩7分

参加費：40歳未満 3000円 40歳以上 5000円

出欠は、同封の葉書に必要事項を記入し、1月3日までに投函下さい。是非、近況もお願いします。直前に出欠の変更がありましたら支部長(連絡先は末尾に記載)まで。



栃木県支部公開講演会の開催

北里大学栃木県支部 支部長 滝 龍雄

北里大学同窓会栃木県支部公開講演会

講師：北里大学東洋医学総合研究所所長

漢方鍼灸治療センター長

花輪 壽彦先生

演題：東洋医学と漢方薬

日時：2015年6月20日午後3時より

場所：栃木県立総合文化センター第一会議室

表記の北里大学同窓会栃木県支部主催の公開講演会を開催します。講師は北里大学 東洋医学研究所所長・漢方鍼灸治療センター長花輪壽彦先生です。



花輪 壽彦先生のご略歴

1980年 浜松医科大学卒業。同大第一内科にて研修。

1982年 北里研究所東洋医学総合研究所に勤務。

同研究所漢方診療部長、所長補佐を経て、

1996年 所長

2001年 北里大学大学院医療系研究科・東洋医学指導教授を兼務

2008年4月 研究所と大学の法人合併により、北里大

学東洋医学研究所所長、および同大学院教授。
社団法人・日本東洋医学会理事・副会長を経て現在監事、
東亜医学協会常任理事、厚生労働省薬事食品衛生専門委員、WHO 伝統医学協力センター長などを兼務。

著書：

『漢方診療のレッスン』（金原出版、1995年）
『漢方よろず相談』（永劫、2001年）
『漢方は女性の健康をたすける』（岩波書店、2005年）
など多数

花輪先生は、日本を代表する東洋医学のリーダーです。
北里大学東洋医学研究所は 1972 年に創設された日本では最も歴史のある東洋医学の総合研究所であり治療センターです。2008 年 4 月に北里研究所と北里学園が統合し、「学校法人・北里研究所（北里大学）」として新たな船出を始めましたが、東洋医学研究所は北里大学の附置研究所として位置づけられています。

東洋医学研究所は伝統医学を遵守、発展させるための旗手として日本の漢方医学の発展のために尽力していますが、花輪先生は 1996 年に所長に就任以来 20 年近く、その先頭に立ち活躍されると共に、東洋医学（漢方医学）に関連した数多くの本を書かれて、マスコミでも東洋の伝統医学や漢方薬についての啓蒙活動を精力的にされています。

栃木県支部は毎年、リレー・フォー・ライフ・ジャパンの活動に参加し、がん患者に寄り添うとともに、がんの世小火治療の研究にも協力していますが、がんの予防や治療には、西洋医学だけではなく、東洋医学も重要な役割を担っていることは良く知られています。

今回は国際学会等もありご多忙の中、栃木県支部の為に公開講演会を開いて下さいます。この良き機会に、多くの方たちに東洋医学についての認識を深め、東洋医学での治療の根幹をなす漢方薬についても理会していただきたいと思ひます。

公開講演会終了後、懇親会を開催します。直接花輪先生から色々なお話を伺う絶好の機会です。是非ご参加下さい。

詳細は次号の支部会ニュースでお知らせします。日程を空けておいて下さい。

医療衛生学部 馬淵清資教授ら 2014年度 イグ・ノーベル賞受賞 北里大学では2人目

栃木県支部 支部長 滝 龍雄

以前の同僚でもある北里大学医療衛生学部医療工学科臨床工学専攻の馬淵清資教授の研究グループが、2014年度のイグ・ノーベル賞物理学賞を受賞しました。

北里大学では 2009 年に「パンダの糞からの水素産生菌の分離」というテーマで生物学賞を受賞した医療衛生学部田口文章名誉教授の以来、二人目です。



ユーモアで笑わせた後、なるほどと考えさせる研究に贈られる「イグ・ノーベル賞」の 2014 年授賞式が 9 月 18 日、米マサチューセッツ州のハーバード大で開かれた。授与式の受賞講演で、人工関節の研究をしている馬淵先生は「痛みの元になる摩擦を減らす仕組みはバナナの滑りやすさと同じだが、実際に滑りやすさを測定した学術的なデータはなかった」と研究の動機を語り、授賞式でも実際にバナナや人工関節の模型を掲げ、研究内容を歌いながら説明し笑いを誘ったそうです。

バナナの皮の内側は粘液が詰まったつぶがたくさんあり、足で踏むとつぶれて滑る原因になります。バナナの皮の上を歩いた時の摩擦係数は通常と比べて6分の1しかないそうです。ほか3人の共同研究者は北里大医療衛生学部の酒井利奈准教授らです。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014 とちぎ in 宇都宮」に参加しました

RFLJ2014 リーダー 滝 龍雄
サブ・リーダー 山内 久恵

去る 2014 年 9 月 13 日（土）～14 日（日）、宇都宮市の宇都宮城址公園において開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014 (RFLJ2014) とちぎ in 宇都宮」に栃木県支部チームとして、24 時間リレー・ウォークに参加すると共に、会場内のテントで大学や同窓会、栃木県支部の宣伝を行いました。

昨年は台風による強風と大雨で、残念ながら朝 8 時で終了しました。今年是一日目の夕方から夜に掛けて雨が降りましたが、翌朝は見事な快晴で、爽やかな秋空に恵まれました。



(24 時間リレー・ウォークのスタートを前に支部のテントで)

RFLJ は、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティイベントです。1985年、アメリカ人外科医が「がんは24時間眠らない」、「がん患者は24時間闘っている」というメッセージを掲げて、がん患者の勇気をたたえ、支援するために走ったのが切っ掛けとなりました。

現在世界20カ国で開催され、毎年400万人を超える人たちが参加しています。日本では、日本対がん協会と各地のボランティアでつくる実行委員会が、全国40カ所以上で開催しています。シンボルカラーは紫で「希望の色」と呼ばれ、太陽・月・星をかたどったロゴは、24時間がんと闘うことを象徴します。栃木県でのRFLJは2012年から始まり、今回で3回目です。栃木県支部は第1回目から参加しています。



(夜も交代で歩き続けます。皆、一見元気ですが・・・)
今回は、支部会員及びその家族参加も含め15名が参加し、何とか24時間リレー・ウォークを完歩しました。今年は初めての試みとして、大学本部より「歯ブラシセット」、同窓会本部より「LED時計」と最新の「同窓会報」を提供して頂き、支部のテントを訪れた一般の方や同窓生、その関係者に記念と宣伝を兼ねてお渡ししました。非常に評判が良く、予定していた数量は早々に無くなりました。大学のマスコット、「キタちゃん、サトさん」も好評で、是非売ってほしいという希望も多数寄せられました。ここで、大学本部と同窓会本部に心からのお礼を申し上げます。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014 とちぎに参加して

衛生学部 産業衛生学科 昭和55年度卒業
川子 博巳

同窓会栃木県支部に今年の新年会に初めて参加させていただき今回が2度目の参加となりました。お酒を飲むこと、体を動かすことの大好きなわたしは、この企画を楽しみにしておりました。また、個人的に、母親を2年前に肝臓ガンで亡くし父親も胃ガンで胃を全摘してリハビリ中であるため、なおさら絶対に参加したいと思いました。

大会当日は、子供の運動会のため午後5時からの参加になりました。それまでの晴天が嘘の様に会場となった宇都宮城址公園は一転雨模様になり、リレーは中断しておりました。小雨になったので同窓会の皆さんと歩きはじめました。午後6時過ぎになり滝支部長が「みんなで食事に行こう。」という話になりましたが、私は今回目標50,000歩以上歩こうと心に決め参加したので、自分一人で歩き続けることにしました。1時間くらいでみんな戻ってくると思いきや午後8時30分になっても誰も戻ってこない。いったいどういうことだ。居残りをしていた同期の福田容子さんに聞いたら「みんな居酒屋に飲みにいってるもんまだ帰ってこないよ。」「しまった。居酒屋だったのか。」そうとわかった瞬間自分も居酒屋にこうと別の団体で参加していた高校時代の同級生と宇都宮の繁華街に繰り出していきました。なんと意志の弱いこと。お酒大好き人間のため午後11時30分まで飲んで再度何もなかったかのように雨の中を同窓生とリレーしながら歩きだし、徹夜でがんばるぞと意気込んでいました。しかし、翌朝4時頃になり睡魔におそわれ弱気の虫が発生。「始発電車でかえろうかな。」と同期の福田さんにいうと「なににいってるの。私も徹夜でがんばっているんだから。でも眠いなら少し休んだら。」とハードラブとソフトラブをいただき持参の寝袋で仮眠。目が覚めたらあたりは明るく時計の針は6時。頭すっきり。絶好調? よしまたがんばろうと最後まであくことを決意。



(2日目には快晴に恵まれ、青空の下、お城もクッキリと)

その後多くの同窓生も参加いただき、一緒に歩いている間にいろいろとお話をしているなか、自社とお付き合いやご指導いただいている方々と出会うことができ貴重な時を過ごさせていただきました。ラッキー// ラッキー// 途中、カイロプラクティックで体のケアをしたり、手打ちそばを食べ栄養補給をしながら正午のラストランに参加者全員で迎えることができました。満足、満足。閉会式も終わり、小松さんと宇都宮駅まで本当に最後のラストラン。電車の中で乾杯// 家に帰って乾杯// 万歩計2日間で81,605歩 やった やった// 目標達成 またまた乾杯// 来年に続く。 THE END



(ラストラン後に記念撮影です。)

福島競馬場観戦ツアー

山内 久恵

絶好の秋晴の中 10月25日、北里大学同窓会栃木県支部と紅緑会の皆様とその関係者総勢 25名でJRA福島競馬場へ観戦ツアーに行っていました。

今回は、同窓生で元JRA競走馬総合研究所所長の兼丸様の尽力のおかげで来賓部屋をご用意頂き素晴らしく快適に人生初の競馬を体験させて頂きました。普段はなじみの無かった競馬(今回参加した皆さんの大多数)でしたので、競馬場へ向かうバスの中で兼丸さんに馬券の買い方の説明をしていただきながら、みんなで大穴を当て、帰りは大盤振る舞いを夢見ながらの終始楽しいバスの中でした。福島競馬場に到着専用エレベーターで来賓部屋に通していただき、私を含め皆さん大いに思い思いの競馬を堪能しました。それに実際に見る競走馬は可愛くって優雅でもあり迫力がありません。



(パドックにて周回中の競走馬をチェックするファン)

少し儲かった人、ちょっと負けた人、大金を稼いだ人はいませんでしたがとても楽しいツアーとなりました。

今回は北里大同窓会栃木県支部と紅緑会の初の合同の企画ではありましたが、また機会がありましたら参加させていただきたいと思っております。

福島競馬観戦ツアー感想

齋藤けさよ

10月最後の土曜日、同窓会有志で企画した「福島競馬観戦ツアー」に参加しました。

初めての競馬観戦、まずは近代的な建物と内部の清潔感にびっくり。今回は来賓室を用意していただき正装して参加しましたが、上品に正装しても、カジュアルでも違和感なく受け入れます。

ツアーメンバーは、レースが始まれば、みんな真剣。先達に師事を仰ぎ、パドックで馬選びをし、馬券を勝って、レースに一喜一憂したと思えば、次のレースと。レースが始まるとご飯食べる暇ない。とはいえ、全レースに参戦しなくとも、マイペースに楽しんでも良しなんです。レストランで、土産物屋を覗いたり、コース内の遊具で遊んだり。

さてさて、個人的には、結果は惨敗でしたが、午年に「競馬をたしなむ」きっかけになりました。たくさんのサラブレッドの鍛えられた身体を間近に見るとほんと感動します。



(競馬初体験の前に作戦会議)

最近、競馬ファンが減少しているとのこと。家族連れでも楽しめます。みなさん是非行ってみてください。

福島競馬場観戦・研修ツアーを開催して

兼丸卓美

本年10月25日(土曜日)北里大学同窓会栃木県支部と紅緑会(北里大学獣医学部同窓会)栃木県支部の両有志による福島競馬観戦・研修ツアーを開催しましたので、お知らせします。

栃木県支部ニュース No.15号(2014.8.1発行)で、本年7月に実施した定期総会に続いて行われた支部講演会「馬の進化と日本在来馬のルーツ」終了後の懇親会の席上で、「競馬場を見てみたい」、「馬券を買ってみたい」との声が上がリ、紅緑会栃木県支部の有志が実施に向けて検討している旨を報告致しました。その後直ちに本企画の実施に向け、総括責任者を紅緑会役員で且つ、全学同窓会栃木県支部の運営委員である齋藤けさよさんをお願いし、相談役として両同窓会の顔役である岸善明先生に依頼して準備に入りました。その後、滝支部長から共催で開催しようとの声を頂き、意を強くし、各方面と実施に向け具体的な調整を重ね、福島競馬場での競馬観戦を実施することが決定致しました。



(2階スタンドから馬場内を一望)

参加者も当初考えていた人数を遥かに上回り 29 名の希望がありました。嬉しい悲鳴とともに、競馬場への席確保の手配と交通手段も自家用乗り合わせからマイクロバスチャーターへととなりました。前日には急きょマイクロバスから大型バスへの車種変更となり、広々、ゆつたりと余裕の旅となりました。

観戦・研修ツアーの当日は心配していたお天気も、参加者の皆さんの日ごろの精進のお陰で、快晴・無風の行楽日和となりました。集合場所である恩賜財団済生会宇都宮病院を定刻の 8 時 30 分に出発、途中西那須野塩原インター（畜産酪農研究センター）にて県北地区の皆さんと合流し、一路東北自動車道にて福島競馬場へと向かいました。

車中で、馬券の種類と購入法、競馬新聞の見方、競馬場内の施設等について若干の紹介と、岸善明先生による競馬新聞の見方の解説がありました。福島競馬場には、心配していた紅葉シーズンの渋滞もなく予定到着時間より早く、11 時 30 分に到着いたしました。丁度お昼休みに入り、混雑することもなく入場手続きもスムーズに 6 階の来賓室へと直行出来ました。

早速、場内が一望できるバルコニーで一休み、その後、まずは腹拵えと食堂へ、予想誌を片手に馬券検討に、はたまた、当日の馬のコンディションを観察にパドックへと、慌ただしい中での競馬観戦のスタートとなりました。時計も、正午を廻り第 5 レースから第 11 レースまで 7 レースが観戦できました。

レース間隔は約 30 分、最初の 1-2 レースは静かな雰囲気でのスタートとなりましたが、レースが進むにつれ本格的なパドックでのコンディションの観察、予想誌の過去の成績、先行逃げ切りか、追い込みタイプなのか等専門家並みの詳細な検討、モニターによる人気指数（オッズ）のチェックなど、レース間隔の 30 分をフル活用、さらにレースがスタートするとゴール手前では馬券片手に愛馬への声援は基より、レースが進むにつれ、声援も段々とヒートアップ、当り馬券よりもその雰囲気を楽しんでいる様子でした。また、ご家族連れの方も馬場内にある若干の遊具施設で楽しんで頂けたのかと思います。



(レース観戦を終え一同来賓室にて)

道路事情も鑑み、最終レースを残し、予定の 16 時に競馬場を後にして帰路につき、紅葉シーズンでの交通渋滞を心配いたしましたでしたが、スムーズな走行により概ね予定していた午後 7 時に無事宇都宮に帰って来ました。

このような企画は、初めてなので何かと不安の中でのスタートとなりましたが、岸善明および齋藤けさよ両氏の適切なる采配と今回参加頂いた皆さんの一致協力の基で無事に実施できたものと思います。このことは、これまで全学同窓会栃木県支部、紅緑会栃木県支部がそれぞれの活動を通して得られた結果として、北里大学同窓生の一一致団結している証と考えられましょう。

今後もこの様な催しを通じて、多くの会員の皆さんが自由に参加し、大きなネットワークの構築と、双方が一体感をもち、太い絆が築ければと思います。

北里大学同窓会支部長会報告

支部長 滝 龍雄

11 月 8 日午後 3 時より（於：京王プラザホテル 47F あさひ）、北里大学同窓会支部長会が開催されました。

18 名の支部長（代理を含む）、3 支部のオブザーバーが参加し、以下の議題について討議しました。

議題

①本部からの報告

- (1) 支部定期総会の開催状況について
- (2) PPA 地区懇談会について
 - 第一回 8 月 10 日 大阪
 - 第二回 10 月 11 日 相模原キャンパ
- (3) 北里大学同窓会 特別奨励賞
- (4) その他

- 1 ; 北里大学保健衛生専門学院との連携について
- 2 ; 同窓会 HP における会員交流掲示板について

②会員交流のための掲示板の設置。

2014.07.01 より会員交流のための掲示板を設置。
(試験運用中)

<掲示板の目的>

同期会、クラブや研究室のOB・OG会の開催に関するお知らせ、打ち合わせ、開催報告などの同窓会会員交流を目的に設置。

＜投稿者の限定＞

北里大学同窓会規約に定める会員のみ投稿可能。

投稿の際、「氏名・学科・卒業期・連絡先（メールアドレス・電話番号等）」を本文に明記。

＜投稿内容の削除について＞

禁止事項に反する書き込みは、管理人権限で削除。

3；慶弔関係について

②各支部からの報告事項

北海道 総会後の懇親会のビンゴ景品に、参加者は地元の特産を持参した。大好評であったが北海道は交通費も掛かるので、次回以降、続けるかどうか検討中。

岐阜 支部会委員の中から講演者を選び、今迄の人生を語ってもらった。参加者増には繋がらなかった。

福岡 会員増のため、懇親会の際新卒及び初参加者の参加費を無料とした。会后初めての参加者に聞いてみると、無料が必ずしも参加の切っ掛けではなかった。

埼玉 来年の支部創立に向けて、準備委員会を構成して活動を開始している。

その他；現在、栃木県内の高校等からの北里大学への受験者は少しずつ減少し、それに伴い合格者も残念ながら減ってきています。大学も首都圏出身の学生が増えてきており、全国区の大学から駅弁大学になってしまうかもしれません。

支部会ニュース原稿大募集

支部会ニュース編集担当

今年は北里研究所創立 100 年、北里大学創立 52 年です。1962 年に白金の地に誕生した大学も 1968 年から相模原の地に教養部が移転しました。



(白金キャンパスのシンボル、旧北里本館)

それ以来 6 万人余の卒業生を出し、栃木県には 1,200 名弱の卒業生が居ます。支部会ニュースは栃木県支部に登録している方々の交流の場として活用して頂ければと思います、以下のテーマで皆様からの投稿をお待ちしています。

1：楽し、恥ずかしの学生時代

白金、相模原、十和田、三陸とキャンパスは離れていますが、同じ北里に集い貴重な甘酸っぱい青春を過ごした事と思います。勉学や研究に勤しんだ方、部活動に情熱をささげた方、社会勉強に励んだ方など、様々な貴重な個人史とも言えるべき経験を多くの方は持っていると思います。その様な思い出を共有しませんか？是非、学生時代の思い出をご投稿下さい。



(相模原のシンボル、旧教養部校舎)

2：私、こんな事をやっています!!

卒業後、社会で色々な経験を重ね、今も様々なボランティアや創作活動を続けられている方も多いでしょう。今、私はこんな事をやっています。是非一緒にやりませんか？という事もあります。仲間の輪を広げるためにも是非現在の様子をお知らせ下さい。

原稿の送り先

原稿は、印刷したもので、メールの添付でも構いません。写真を挿入する事も可能です。郵便の場合には投稿原稿と朱書きして下さい。薄謝を進呈します。

329-0434 下野市祇園 2-24-1

滝 龍雄

Tel. & Fax.0285-44-8666

e-mail address : tatabox@kitasato-u.ac.jp

尚、原稿は、到着順に掲載しますのでご了承下さい。

